

# 研究主題 中学校における携帯端末のコミュニケーション機能利用に関する情報モラル指導の研究

— 体験的学習活動に対応した短学活や授業で活用できる教材の開発を通して —

【研究担当者】 鎌田 政好

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2254 (FAX 兼用)

E-mail johor@center.iwate-ed.jp

## ◆研究の目的

情報通信ネットワークの整備が進み、地域を問わずインターネットの利用ができるようになってきました。さらに、インターネットに接続できる携帯端末を利用する人口が増加し、その便利さの反面、危険に遭遇する場合も増えてきています。このような背景から新学習指導要領では、インターネットの「影」の部分を理解した上で、情報手段をいかに使っていくか、そのための判断力や心構えを身につけさせるために、情報モラルの指導を大きく掲げています。

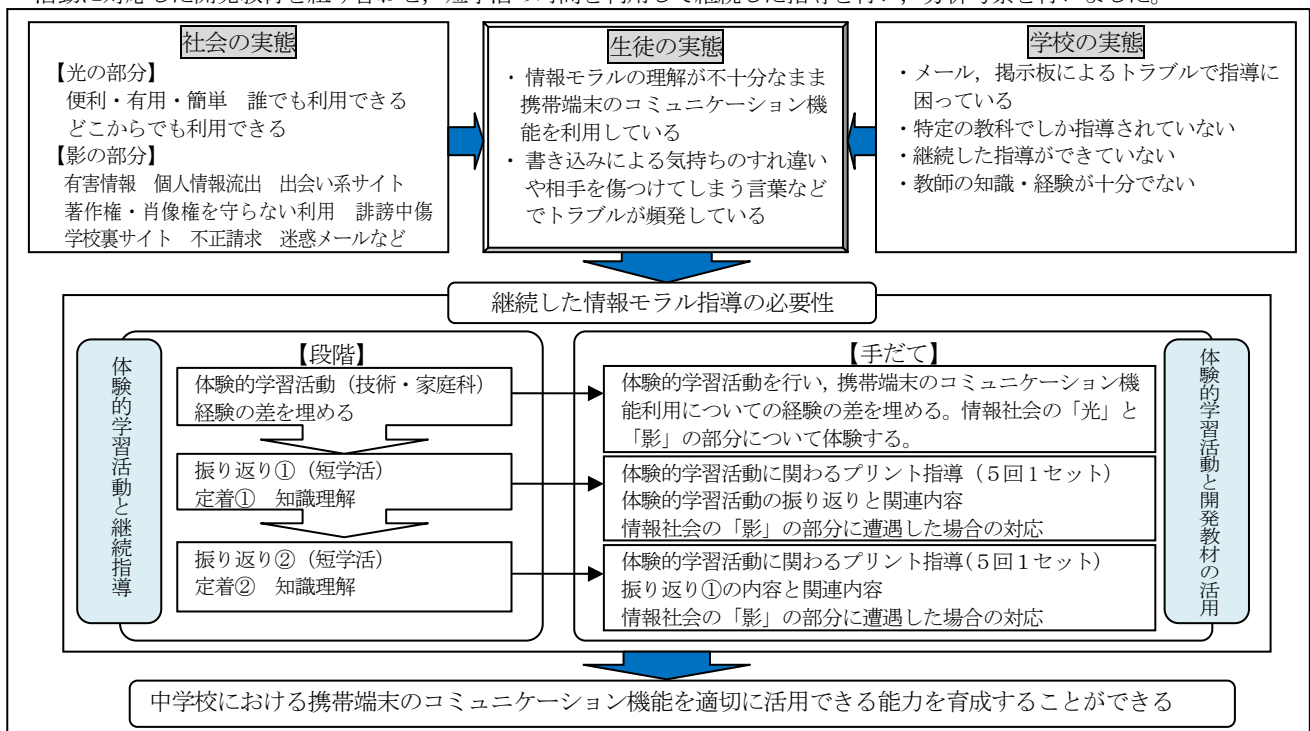
しかし、パソコンや携帯端末を利用してインターネットに接続している生徒は、メールや掲示板・チャットのルールを意識せずに利用するため、書き込みによる気持ちのすれ違いや相手を傷つけてしまう言葉などでトラブルが頻発しています。また、「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」（文部科学省、2009）によると、携帯電話の所持率は学年を追うごとに上がり、高校一年生までの間に 96% の生徒が携帯電話を所有しています。特に、所持率が急増する中学生の時期に危険を回避する方法を学ぶ必要がありますが、継続した指導が行われていません。

このような状況を改善するためには、短学活や授業で活用できる教材と教師用指導資料を作成し、体験的学習活動を通して継続した指導を行うことが必要です。その結果、生徒は、携帯端末におけるコミュニケーション機能利用に関する知識の定着と意識の持続が図られ、適切に活用できる能力が育成されていくものと考えます。

そこで本研究では、体験的学習活動に対応した短学活や授業で活用できる教材の開発を通して、中学校における携帯端末のコミュニケーション機能を適切に活用できる能力を育成する指導に役立てようとするものです。

## ◆研究の概要

中学校における携帯端末のコミュニケーション機能利用に関する情報モラル指導に役立てるため、次の二点から成果と課題を明らかにします。一つ目に携帯端末のコミュニケーション機能利用に関する教材を開発しました。二つ目に体験的学習活動に対応した開発教材を組み合わせ、短学活の時間を利用して継続した指導を行い、分析考察を行いました。



【図 1】 中学校における携帯端末のコミュニケーション機能利用に関する情報モラル指導の基本構想図

# 体験的学習活動と短学活指導による「継続した指導」の流れ(1年生)

## 体験的学習活動(技術・家庭科)

「スキルや知識の差を埋める」

### 内容

- ・ 占いサイトの体験
- ・ メール体験
- ・ 文字伝達による伝わり方
- ・ ネットワークのしくみ
- ・ ネットコミュニケーションの注意点

### 成果

- ・ 個人情報の扱いについて理解しました。
- ・ メールの送受信を体験しました。
- ・ 対面と文字伝達による伝わり方の違いを理解しました。
- ・ ネットワークのしくみを理解しました。
- ・ ネットコミュニケーションの注意点を理解しました。



## 短学活指導

「継続した指導①」

### 内容

- ・ 個人情報
- ・ 迷惑メール(チェーンメール・ワンクリック)
- ・ 文字伝達による伝わり方
- ・ 情報モラルチェックシート

### 成果

チェーンメールの設定では50%の生徒が誤った行動を選択しましたが、短学活指導で95.8%の生徒が正しい行動と理由を選択できるようになりました。



## 短学活指導

「継続した指導②」

### 内容

- ・ 9月と指導項目は同じ。場面設定は変更。

### 成果

チェーンメールの場面設定を変更したところ、20.8%の生徒が誤った行動を選択しましたが、短学活指導で100%の生徒が正しい行動と理由を選択できるようになりました。チェーンメールの見分け方、対処方法が定着しました。



11月

## 指導用教材及び教師用指導資料

8月

## 活用のしかた

### 【活用方法1】

本実践のように、技術・家庭科と連携し短学活の時間を利用して「継続した指導」を行うことができます。

### 【活用方法2】

各教科の指導内容に近い題材を選択して、授業の中で補助的資料として指導することができます。

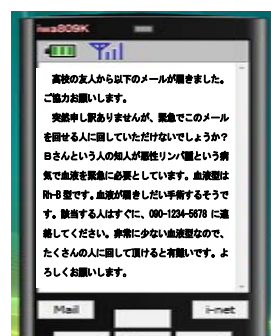
### 【活用方法3】

生徒にトラブルが発生した時(もしくは予防として)、トラブルの内容に近い題材を選択して、ピンポイントで指導することができます。

生徒用プリントと教師用指導資料の裏には、生徒の理解を補助するとともに、保護者にも知ってもらいたい内容が印刷されています。

9月

こんなメールが来たら、あなたはどうしますか？



友達のお姉ちゃんから左のようなメールが届きました。血液を必要としている人は、直接の知り合いではありませんが、とても急いでいるようです。私は、このあとどうすればいいのかなあ？

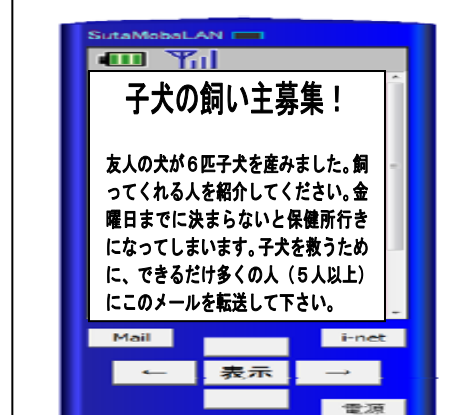
設問1 こんなメールが来たら、あなたはどうしますか？

- ア 転送する。友達のお姉ちゃんのお願だから。
- イ 転送する。Bさんを何としても助けたいので、友達だけでなく、知り合いすべてに協力してもらいたいから。
- ウ 転送しない。デマ情報である可能性が高いし、転送したらインターネットがつかなくなりかねないから。
- エ 転送しない。たかさんの人に連絡するのは面倒だから。

設問2 説明を聞いて分かったことや大切だと思ったことを書きましよう。

【キーワード】 ・チェーンメール ・〇人に回して(〇人に回して) ・デマ情報

【生徒用プリント】



【提示用資料(拡大図)】

### 【ポイント】

- チェーンメールが来たら、絶対に転送せず、とめること。
  - ・誰がとめたかなんて分かりません
  - ・あなたの信頼度が下がります
  - ・友達が嫌な思いをします
  - ・ネットワーク環境が悪化します
- 「〇人に回して」「できるだけたくさんの人に教えてあげて」など、転送を要求する文章が特徴。
- チェーンメールで困ったときには、保護者や先生に相談すること。

【提示用資料(フリップ)】

こんなメールが来たら、あなたはどうしますか？

友達の姉ちゃんから左のようなメールが届きました。血液を必要としている人は、直接の知り合いではありませんが、とても急いでいるようです。私は、このあとどうすればいいのかなあ？

設問1 こんなメールが来たら、あなたはどうしますか？

ア 転送する。友達のお姉ちゃんのお願だから。

イ 転送する。Bさんを何としても助けたいので、友達だけでなく、知り合いすべてに協力してもらいたいから。

ウ 転送しない。デマ情報である可能性が高いし、転送したらインターネットがつかなくなりかねないから。

エ 転送しない。たかさんの人に連絡するのは面倒だから。

設問2 説明を聞いて分かったことや大切だと思ったことを書きましよう。

【キーワード】 ・チェーンメール ・〇人に回して(〇人に回して) ・デマ情報

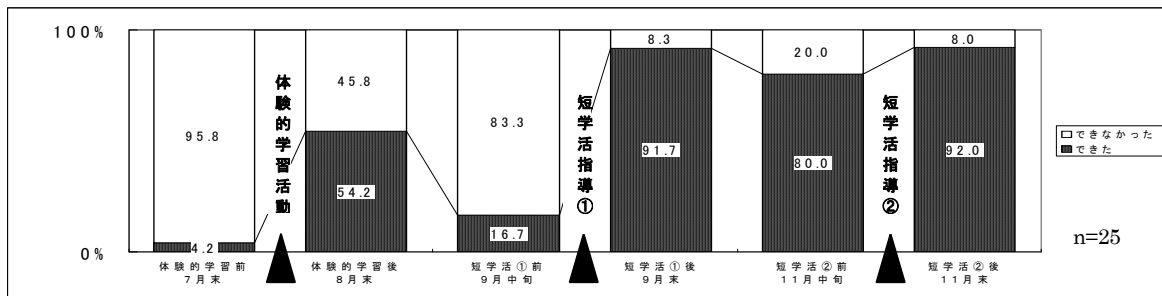
【内容解説】チェーンメールとは、連鎖的に不特定多数への転送を促すように作られたメールです。チェーンメールには、「血液が足りない」「子犬をもらって」など言葉が揃っているものもありますが、自然性はなく、デマ情報やたまたま目的のたまたまです。最近では、出会い系サイトのワンクリック詐欺のサイトへ誘導するものもあります。見分け方としては、「〇人に回して」「できるだけたくさんの人に教えてあげて」など転送を要求する文章が入っています。内容にかかわらず、転送してはいけません。「偽りの情報であること」「もらった相手は嫌な思いをすること」「ネットワーク環境が悪化すること」が大きな理由です。チェーンメールをとめることに不安を感じる人もいますが、とても簡単に分かるので、転送せずにとめて削除してください。

- 【今日のポイント】
- ・チェーンメールかどうかの判断のしかた「〇人に回して」「できるだけたくさんの人に教えてあげて」など転送を要求する文章が特徴。
  - ・チェーンメールが来たら、絶対に転送せず、とめること。
  - ・チェーンメールが来たら、絶対に転送せず、とめること。
  - ・誰がとめたかなんて分かりません
  - ・あなたの信頼度が下がります
  - ・友達が嫌な思いをします
  - ・ネットワーク環境が悪化します
  - ・チェーンメールで困ったときには、保護者や先生に相談すること。

【教師用指導資料】

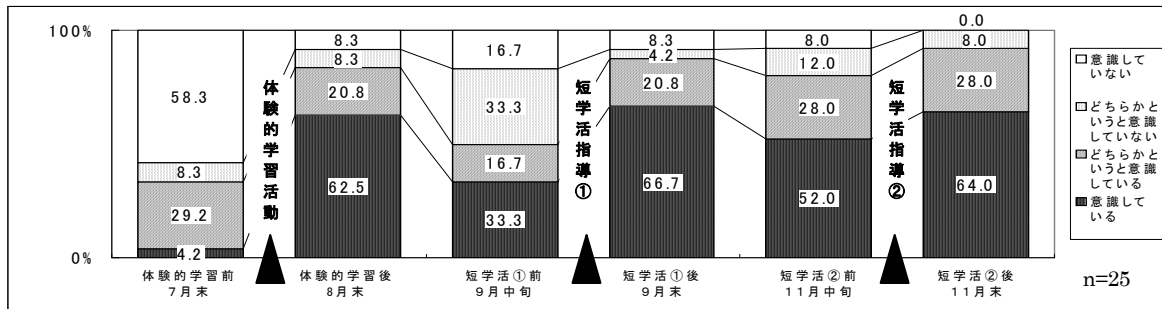
## ◆分析と考察

ア 検証計画に基づいた知識の検証〔文字による伝達の特徴を説明できたか〕



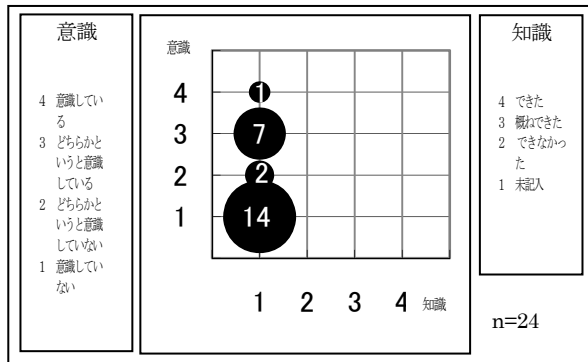
【図2】文字による伝達の特徴（1年生）

イ 検証計画に基づいた意識の検証〔個人情報意識して利用しているか〕

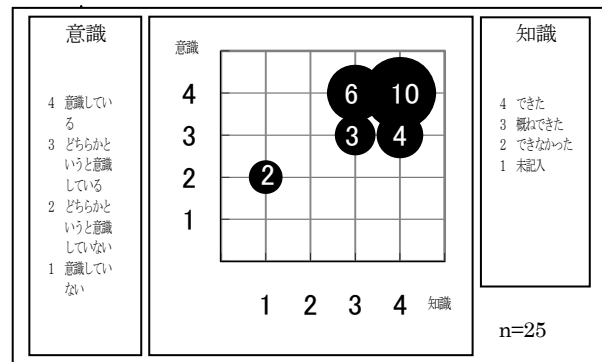


【図3】個人情報意識した利用（1年生）

ウ 検証計画に基づいた検証〔知識と意識の関係〕



【図4】知識と意識の関係（7月）



【図5】知識と意識の関係（11月）

【図2】をみると、エビングハウスの忘却曲線と同じように、体験的学習活動後に記述できた生徒が時間の経過とともに減少する傾向がみられました（54.2%→16.7%）。しかし、短学活指導①を行うことで記述できた生徒が増え、2か月後の短学活指導②の事前調査でも80.0%の生徒が記述できました。短学活指導①と②の事前調査を比較すると短学活指導②の事前調査の方が記述できた生徒が多く、短学活の時間を利用して継続した指導を行うことの効果がありました。

【図3】をみると、1年生は体験的学習活動や短学活指導を行えば、個人情報に対する意識が高まるのが分かります。しかし、携帯電話がまだ身近なものとなっていないため、指導があるかないかでグラフの上がり下がり大きいのが特徴です。短学活で継続した指導を行うことによって、個人情報に対する意識が高まりつつある状態と言えます。

【図4】・【図5】をみると、知識と意識の相互の関係が分かります。【図4】をみると、1年生の7月の調査では文字による伝達の特徴を記述できた生徒は1人もなく、個人情報を意識していない生徒も16人（66.7%）いました。体験的学習活動と短学活指導による継続した指導を行うことで、【図5】のように2人以上は文字による伝達の特徴を記述でき、知識と意識がバランスよく身につけていることが分かります。

## ◆研究のまとめ

研究の成果

- ① 中学校における携帯端末のコミュニケーション機能利用に関する情報モラル指導の基本的な考えをまとめ、指導計画を基に体験的学習活動に対応した短学活指導の効果を明らかにすることができました。
- ② 体験的学習活動に対応した短学活や授業で活用できる教材を開発することができました。